

## 事務事業評価表（公共施設）

評価対象年度	平成 25 年度
1次評価日（主幹等）	26年3月31日
2次評価日（課長等）	26年3月31日

1 事業名	岡谷駅前広場管理事業			コード	142104	
2 担当部課	部等	経済部	課等	商業観光課	作成者	佐藤 嘉泰
3 事業概要	目的体系	基本目標	快適に生活できる、都市機能の充実したまち			
		政策	交通網の整備	施策	公共交通網の整備	
		予算科目	岡谷駅前広場管理事業費	業務委託	全部委託	
		実施義務	なし（選択的事業）	国県補助	なし	
		設置条例	岡谷市駅前広場等条例			

## ●事業の内容（D0）

4 施設の概要・設置目的	*対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）		
施設の概要（簡潔に）	自家用車整理場及び路線バス、タクシーの利用者のための環境維持		
目的	対象者	駐車場利用者	
	意図	利用者が安全・快適に施設を利用できるよう適切な管理を行う。	

5 施設の管理運営状況			
指定管理者	シダックス大新東ヒューマンサービス(株)	25年度指定管理料	5,103,000 円
施設における通常業務	自家用車整理場の使用料徴収、バス発着場及びタクシー駐車場の管理清掃等の業務を実施。 バス発着場 5台、タクシー駐車場 15台 自家用車整理場年間利用台数 111,919台 使用料収入2,997,210円（自家用車 1,635,210円 バス、タクシー1,362,000円）		
事業の実施内容	<p>（25年度に施設で行った運営事業・自主事業など）</p> 岡谷駅前広場等運営管理を指定管理者シダックス大新東ヒューマンサービス株式会社が 行った。 【内容等】・駅前広場装飾 ・清掃業務		
前年度の課題への対応	特になし		

6 施設の利用状況	*②・③はどちらかの欄に記入			
区分	23年度	24年度	25年度	26年度(予算)
① 施設稼働率	100.0%	100.0%	100.0%	
年間開設日数（日）	366	365	365	365
1日の開設時間（時間）	24	24	24	24
年間利用可能時間（時間）	8,784	8,760	8,760	8,760
年間利用実績（時間）	8,784	8,760	8,760	
② 年間利用者数（人）	97,053	111,919	116,127	115,000
有料利用者数	97,053	111,919	116,127	115,000
無料利用者数	0	0	0	0
減免措置者数				
③ 年間利用件数（件）	0	0	0	0
有料利用件数				
無料利用件数				
減免措置件数				
④ 1日あたり利用者数、件数	265.2	306.6	318.2	315.1
⑤ 施設利用状況の説明	自家用車駐車場を利用し30分を超えた有料台数			

## 7 コストの推移

\* この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）

[単位：円]

区分	23年度	24年度	25年度	26年度(予算)
① 直接事業費	6,967,783	6,967,782	5,158,802	5,415,000
経常経費	6,967,783	6,967,782	5,158,802	5,415,000
臨時的経費	0	0	0	0
* 臨時的経費の説明				
区分	23年度	24年度	25年度	26年度(予算)
② 人件費	1,600,000	1,600,000	1,600,000	1,600,000
正規職員の人数(人)	0.20	0.20	0.20	0.20
③ 合計コスト(①+②)	8,567,783	8,567,782	6,758,802	7,015,000
前年度比		100.0%	78.9%	103.8%
財源	5,863,883	5,570,572	3,397,002	3,828,000
内訳				
一般財源	5,863,883	5,570,572	3,397,002	3,828,000
特定財源	2,703,900	2,997,210	3,361,800	3,187,000
* 特定財源の説明	タクシー駐車場、バス発着場、自家用車整理場の使用料			
④ 施設使用料年間収入額	2,703,900	2,997,210	3,361,800	3,187,000
⑤ 年間減免措置額	0	0	0	0
⑥ 受益者負担割合	38.8%	43.0%	65.2%	58.9%
⑦ 活動一単位あたりコスト	88	77	58	
前年度比		86.7%	76.0%	
⑧ コストに関する補足説明				

## ●事業の評価 (CHECK)

8 妥当性評価	* 妥当性=行政がこの事業を行う必要性はあるか。	妥当性	標準
評価項目		はい	いいえ
① 現時点で、税金を投入して積極的に関与すべき重要な分野である。		1	
② 民間(企業、NPO、市民団体等)へ委ねることが難しく、市が行う必要がある。			0
③ 民間(企業、NPO、市民団体等)が行うサービスと類似・競合していない。		1	
④ 国・県の事業、市が行っている他の事業と類似・重複していない。			
⑤ この事業の効果は広く市民に還元され、特定者の利益にはなっていない。		1	

9 有効性評価	* 有効性=施設の利用状況(項目6/住民の満足度)は向上しているか。	有効性	標準
評価項目		はい	いいえ
① この事業が属する施策において、この事業の優先度が高い。			0
② 社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、事業の内容に反映している。		1	
③ この事業の目的を達成する上で、現在の方法が最も効果的で低コストである。		1	
④ 施設の利用者が増加した。	1日あたり利用者数、件数 前年度比 103.8%	1	
⑤ 施設使用料収入が増加した。	施設使用料年間収入額 前年度比 112.2%	1	

## ●改善の内容 (ACTION)

10 具体的な課題と改善	
課題	(施設の有効活用、施設サービスの向上、利用状況の向上を図る上で、現在課題になっていること) 特になし
改善方法	(上記の課題をふまえて26年度以降に実施する、具体的な改善の内容) 特になし
改善開始時期	

●次年度の計画 (PLAN)

11 次年度の方針	継続して実施	12 施策評価による26年度の優先度 *H24年度施策評価表より転記すること	B
13 大規模修繕の予定			
	予定事業費	円	予定時期
内容	なし		